東海道中膝栗毛 七編

万亭應賀作
一猛齋芳虎画

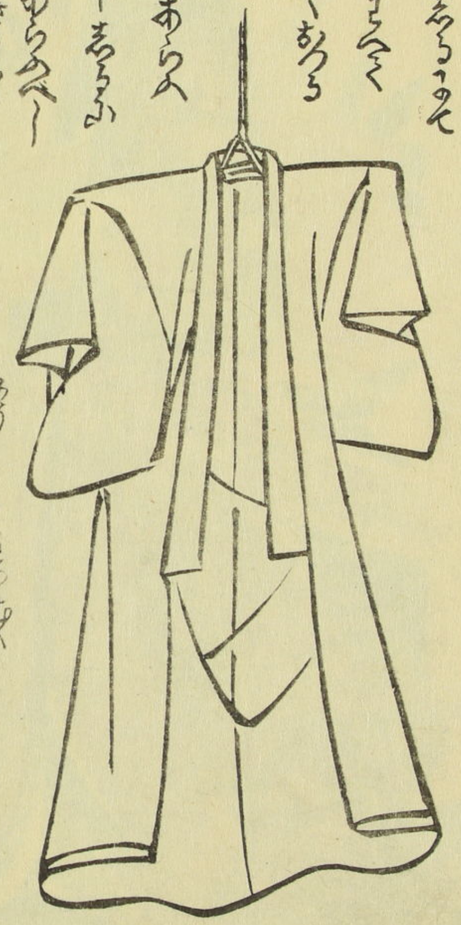
錦橋堂校

へ13
3906
4

門へ13
號3906
卷 4

重寶記

紅ぐみ社絹ちりめん油のつきたる事かぐみ草と
皂角をせんじたるあらこの
つたる油を少しくくく
洗へば色ろくぶちくあろ
ろ又ゆみ絹
紙ぢりめんひざやとあらく
ハ山梔子のせんじたるふ
能を少しくくくあらへ
垢をくくつくるのへハ皂角を生ぜあらへて妙ありて白金箔の
垢ハ黒ほしてよく乾きたる西洋紙ぢりどをてこすりぬぐべし



御所奉公東日記七編序

美濃信濃両國の間ふ筆木とぼめ社あり是を遠く望めばけるぐ〜筆の如くふ見ゆ又近づきて是を見るに其影形もわしとけるふ仍て在ゆもゆ〜ゆえきき木と歌誹ゆもよく詠り是と此冊子ハ意よく似たり抑源右幕下より三代三代の將軍及び諸臣の善悪以至年号月日ハ則遠く望ゑ筆木の如く空言而已ふ侍〜ゆ其實事を著せり又間所ゑ戯述あ〜〜則近く見る筆木のごく在ると見まゆ正もく無ると見まゆ正もあ〜イザと問ゑんみかさゆ〜やとあり原の東下りふ東日記を見て詠〜ゆ万亭集ゑ見えるる也

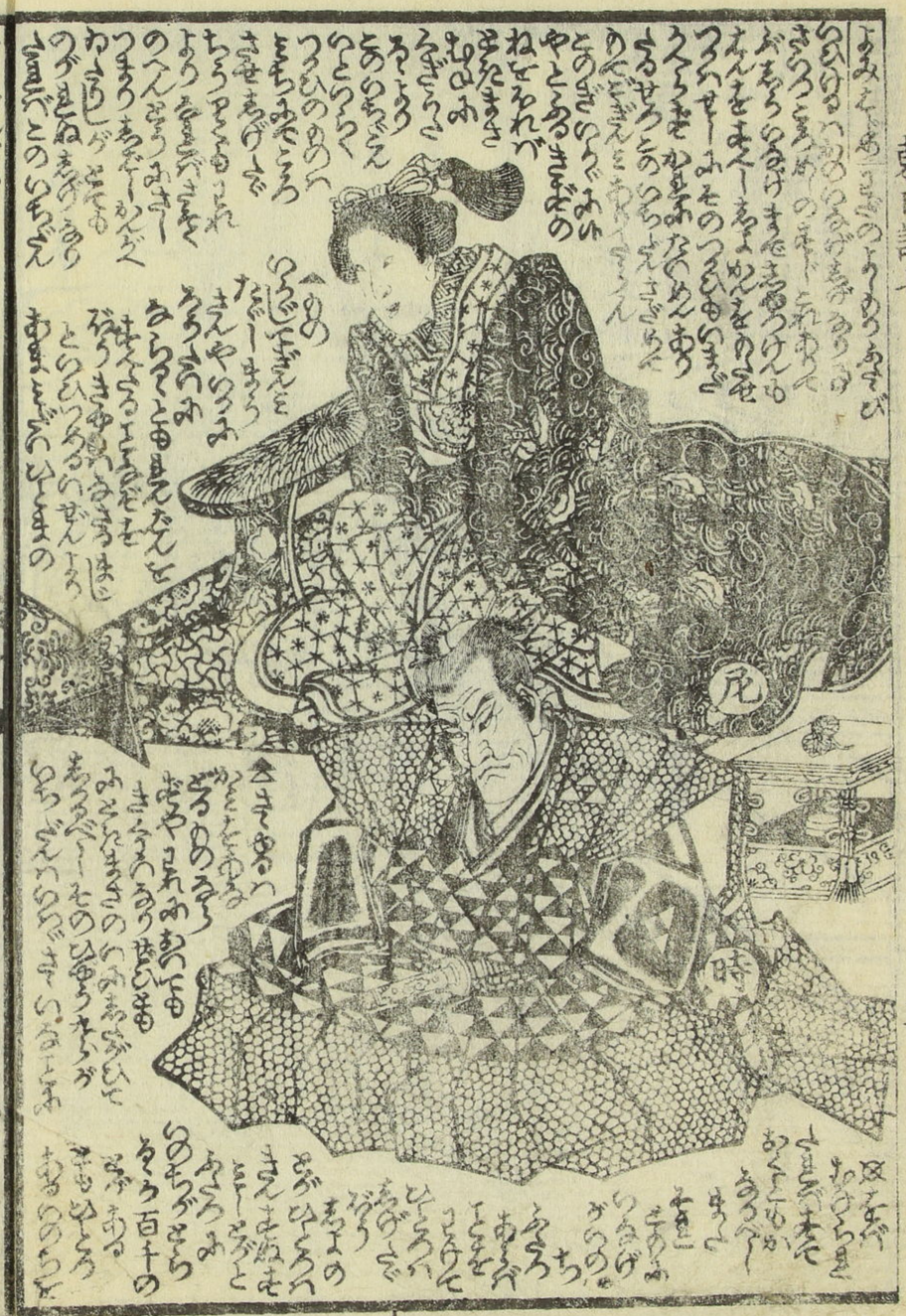
安政三年丙辰初春新刻　長恩堂　應賀誌

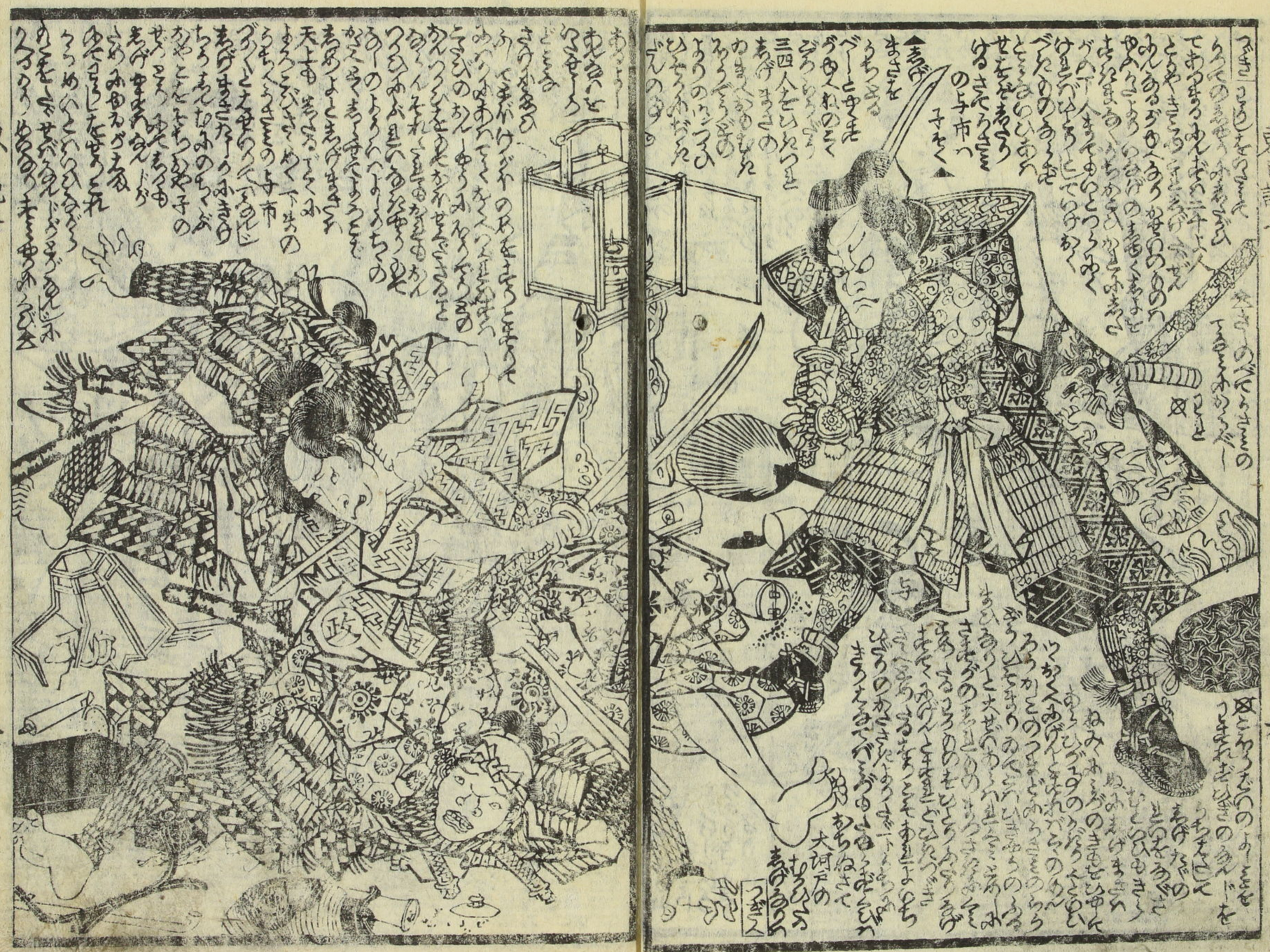
大河戸三郎重成を討
詭者稲毛三郎重成入道同子息小沢次郎
重政の首
入道重成

重政奸計露顕し及び誅戮
宇佐美與市。重政を討
子し柏原の磯の大東

時政
元久二年
閏七月十九日
鎌倉三代の
武將實朝卿
結城七郎朝光

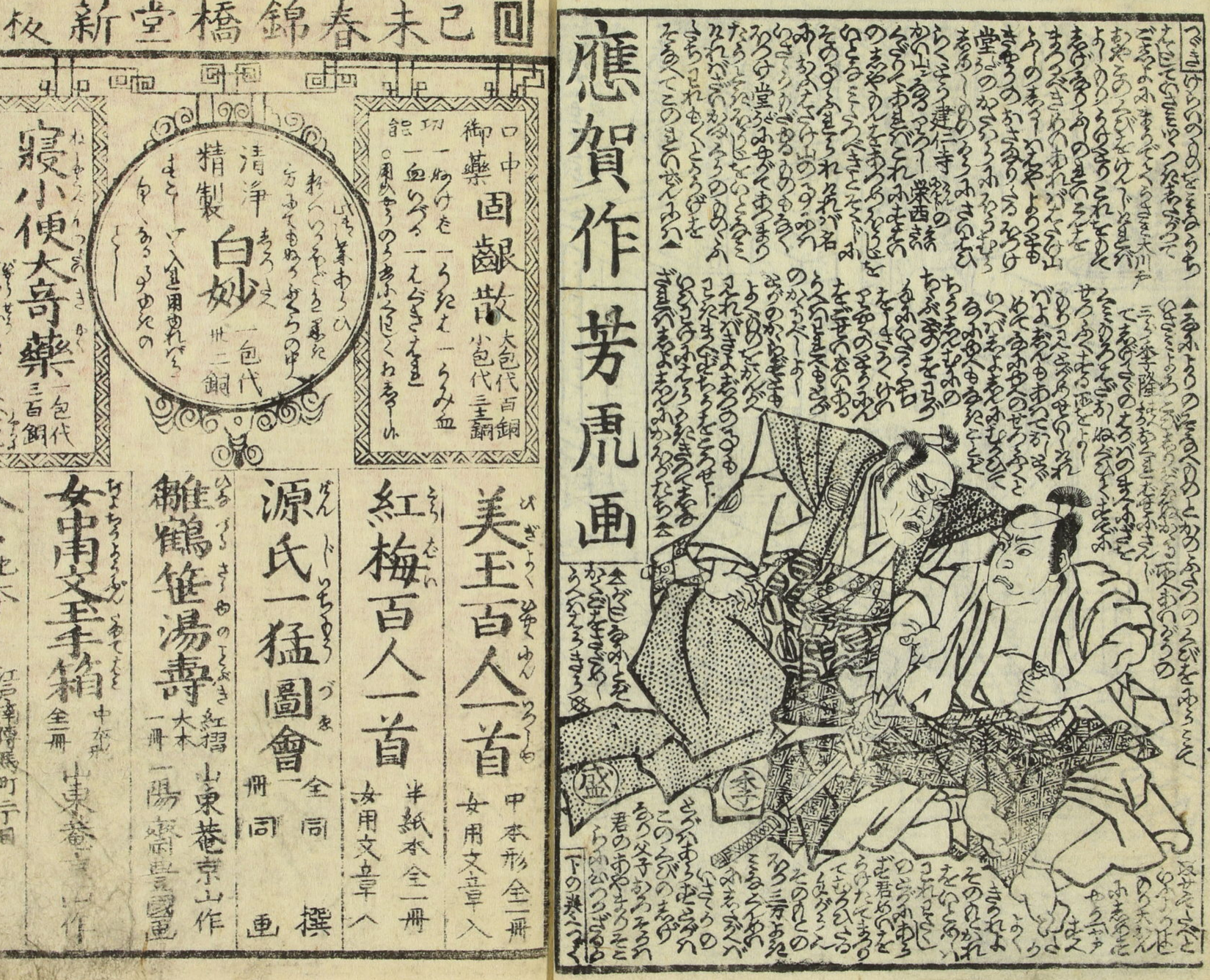
牧の方
名越北条の
亭を
實朝卿
御
危難を
あひ玉へ




つぎ

つゞき

應賀作　芳虎画



己未春錦橋堂新板

口中藥　固齦散　大包代百銅　小包代三十銅
切一ぬりけを一うるを一うるみ血
詰一血いでる一ぬるさ
○用ひるのち歯ぶくれあるーは

清浄　精製　白妙　一包代　世二銅
まち一ぬ入れ用ひれば
白くあるる少ゆえの
〜〜

寢小便大奇藥　一包代三百銅
ねしやうべんをたつ
つるを来スベし癖症ゆえも大小児
男女とも一色あり法あり

美玉百人一首　中本形全二冊　女用文章入
紅梅百人一首　半紙本全二冊　女用文章入
源氏一猛圖會　全同　撰　冊同　画
雛鶴笹湯壽　紅摺　山東菴京山作　大本一冊　一陽齋豊國画
女用文玉手箱　中本形全二冊　山東菴京山作

江戸南傳馬町二丁目
地本問屋　錦繪屋　山田屋庄次郎

東日記
一猛齋芳虎画
下
錦橋堂梓

重寶記

男女ともに髪を長くしちぶみぐしを治したる

一麻の葉　一桑の葉

ある紙等にうみせんじて常に洗うべし

又赤毛を直すに

一桐の木を煎じて洗へ

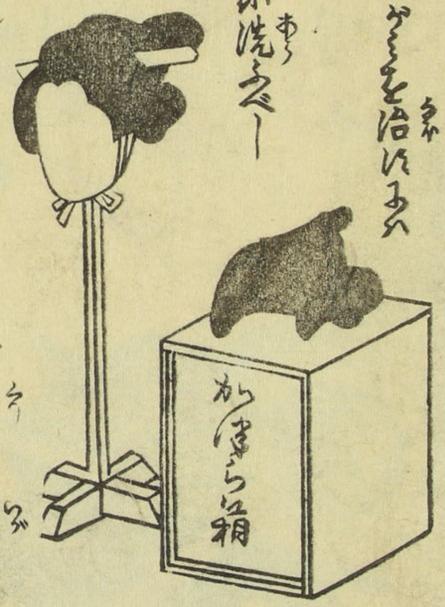
さたい毛の色黒くなること

妙なる又毛生ずるはさるぐわをぞ

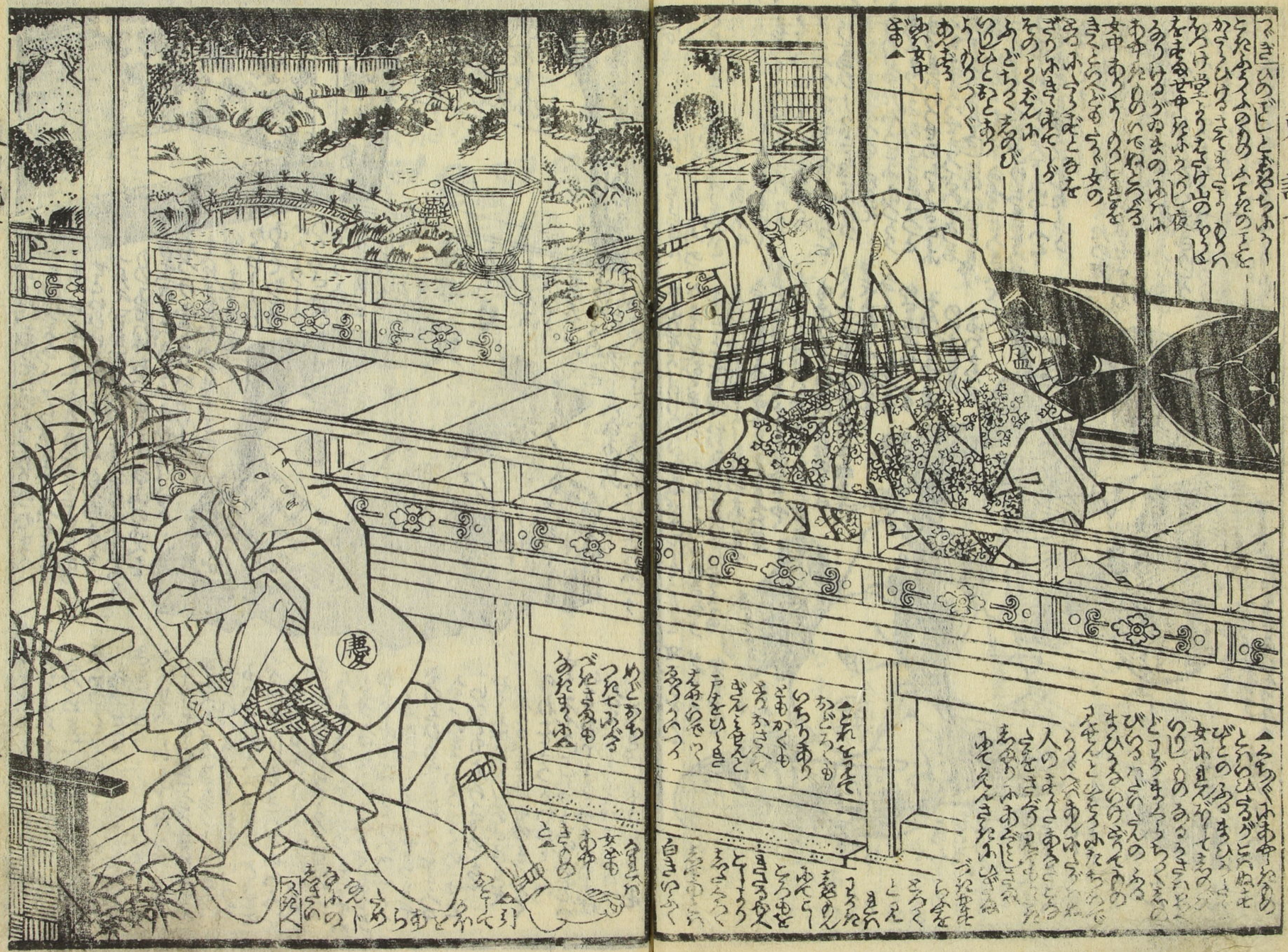
うれを重くしてそのひうさたのあり

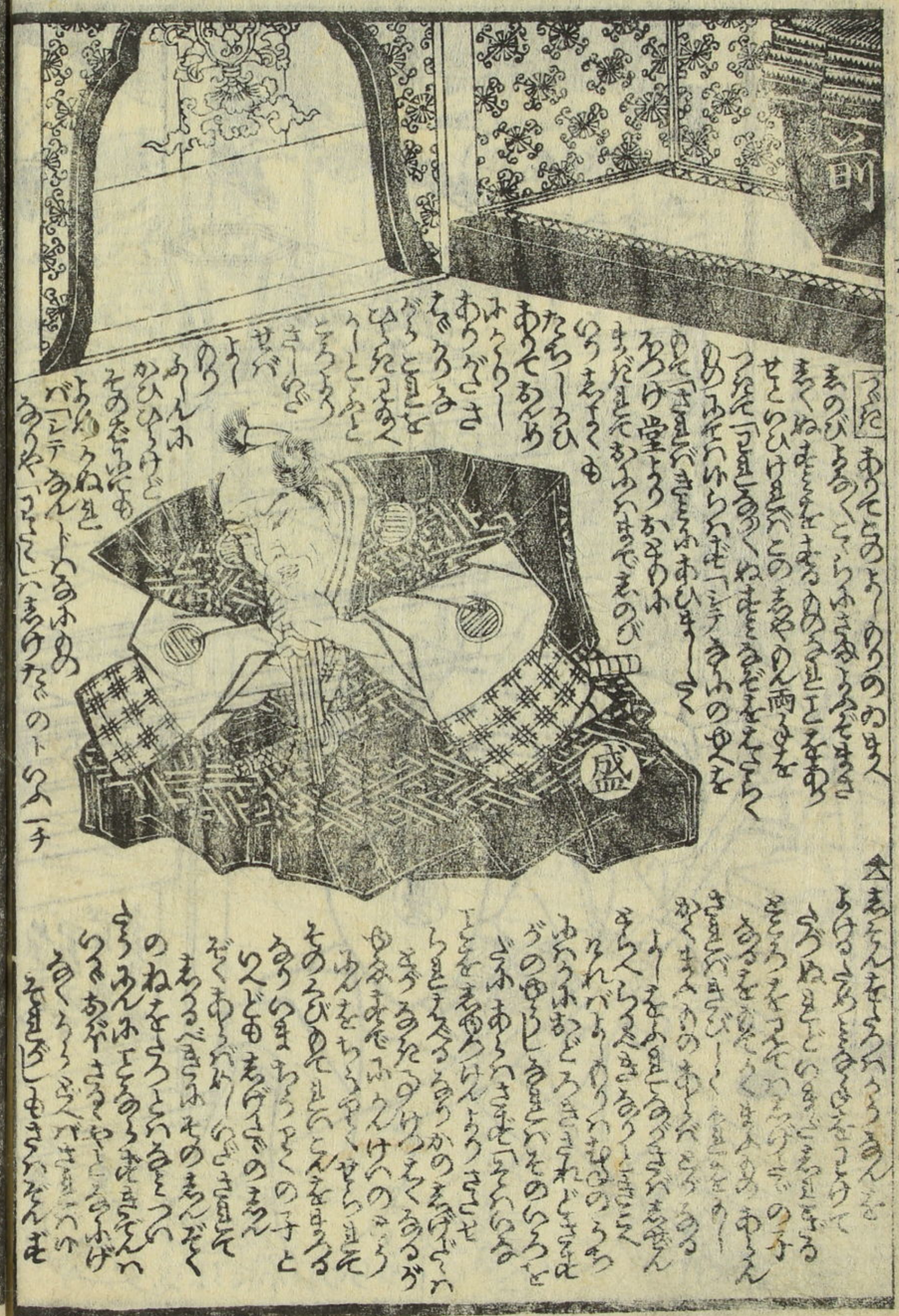
一枳殻を丸めく黒ゆふ

一真菰の灰をあはせたべたる



▲ところを栗の刺にて
洗きたるあとへつけて
たべること妙なり
とな


盛
慶


盛

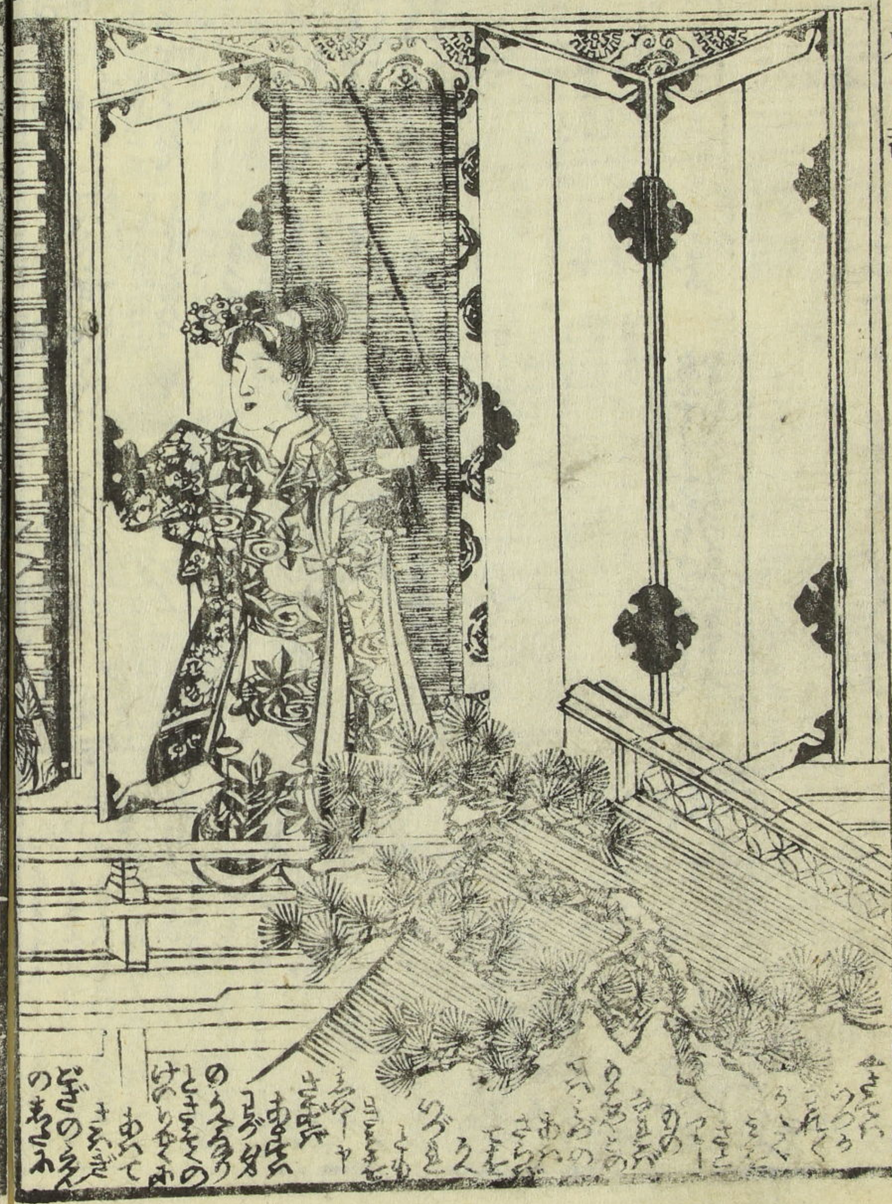
宗

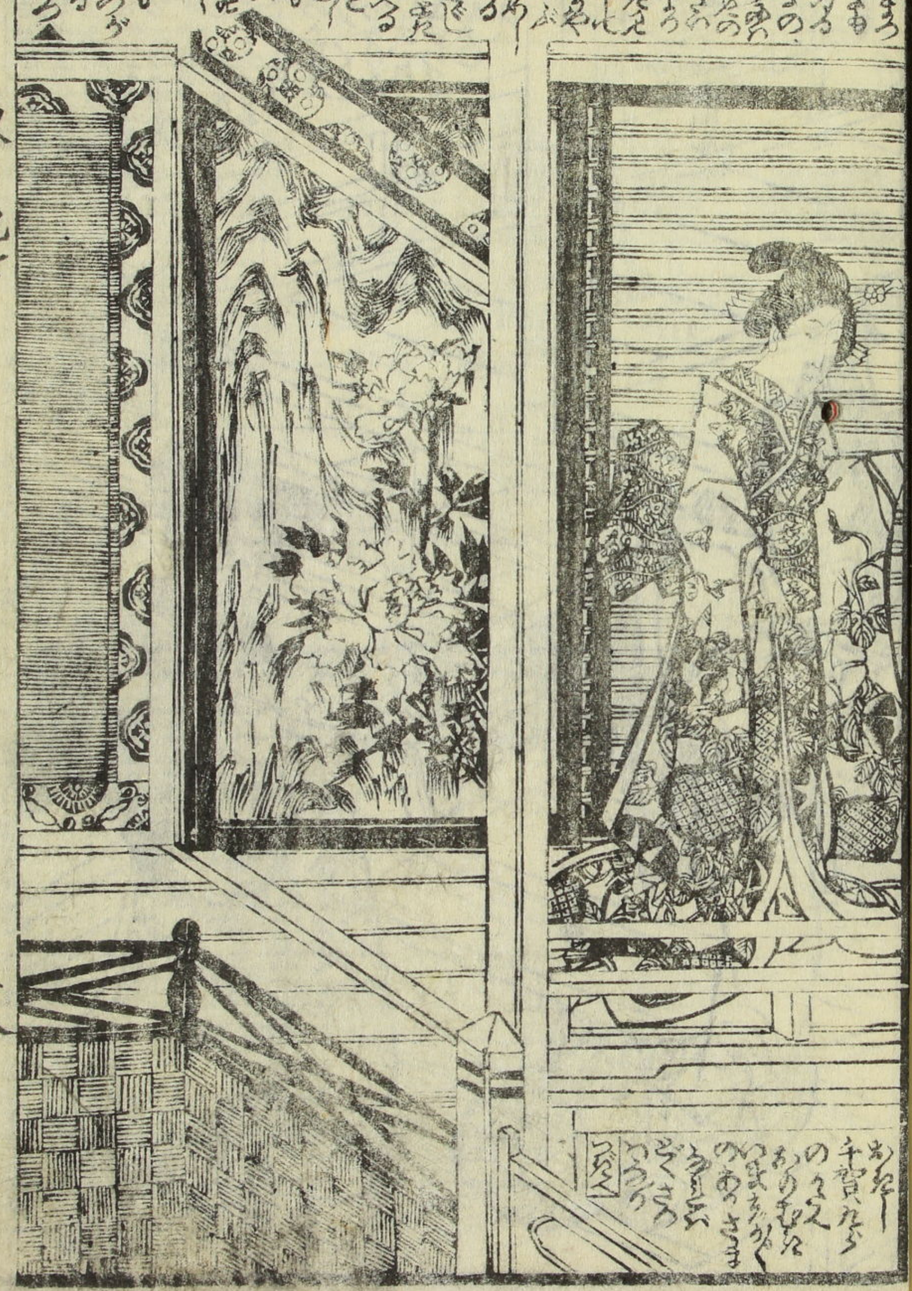
盛
光

實

西山之雲如峯

時
牧
義
柴





已未初春錦橋堂新板目録

教草女房形氣　十九編　山東菴京山作　二十編　梅蝶樓國貞画

足利絹手染紫　十九編　金水作　二十編　國貞画

五拾三驛　初編　雪住作　六編　芳虎画　各五冊　吾妻下

御所拳公　九編　万亭應賀作　十編　孟齋好寅画

宮城野　敵討白石噺　全二冊　孟齋作　信夫　好寅画

無病長壽　養生手引草　上中　翁京山作　下　一立齋廣重画

右八の方の内のから方又八女の方ゟむこみ又八手ゟ手ゟの者ゟ百歳をこゝゝくむ病ゟ長壽するとをゝく考へ

伊賀越敵討物語　全二冊　孟齋作　好寅画

造紙櫻義紙　十編　梅彦作　芳虎画

全　地本錦繪問屋　南傳馬町二丁目　山田屋庄次郎

吾妻日記八編

上

万亭應賀作
錦朝樓芳虎画

重寶記

蘓鉄は葉の
枯たる様黒焼
あるを貯へ置べし
切疵等の大妙藥なり
又上用はうちの茄子は花も
黒焼にして用ひてよろし

御所奉公東日記八編

家ふ爭論子あるに其父他人の侮を受おとしめなれば
金言なる北條時政大罪を殘しを息義時ふ其識を讓
泰時不在バなんぞ義時二代の執權ふ居べきや君ふ
内緣あるといへども皆孝子の祖父及び父ふ毎々
爭ふ成りがたく然るバ榮ある鎌倉山は星月夜照
らしまるバ曇りなる誉の有様をあぶまあるくも唯か
章ふ向ふ花ゝみ

安政五戊午
歳初春新刻

万亭應賀誌

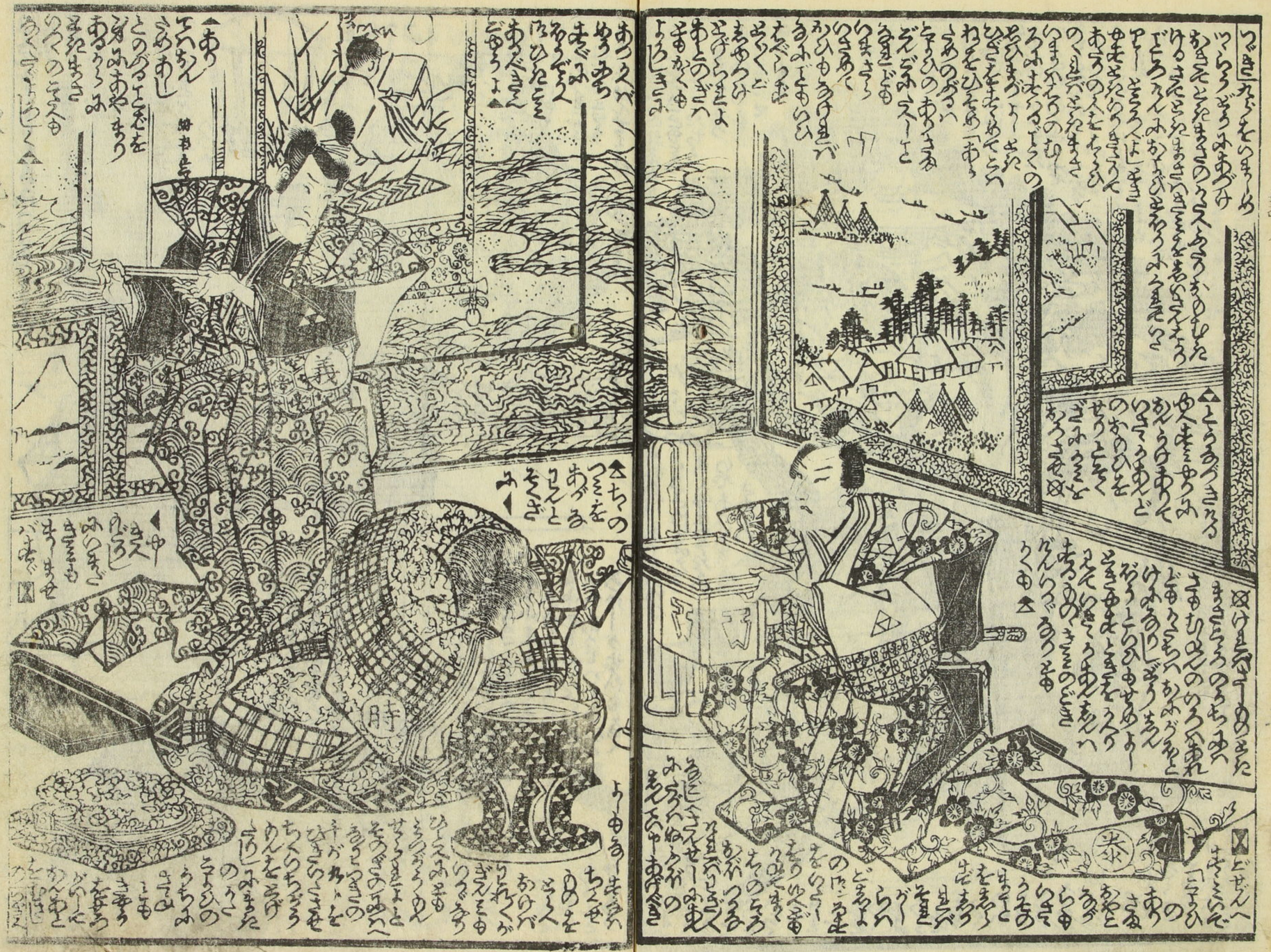
相模次郎朝時
局松島殿
奪出る所
朝比奈
義秀み
捕止る
松島局

朝時

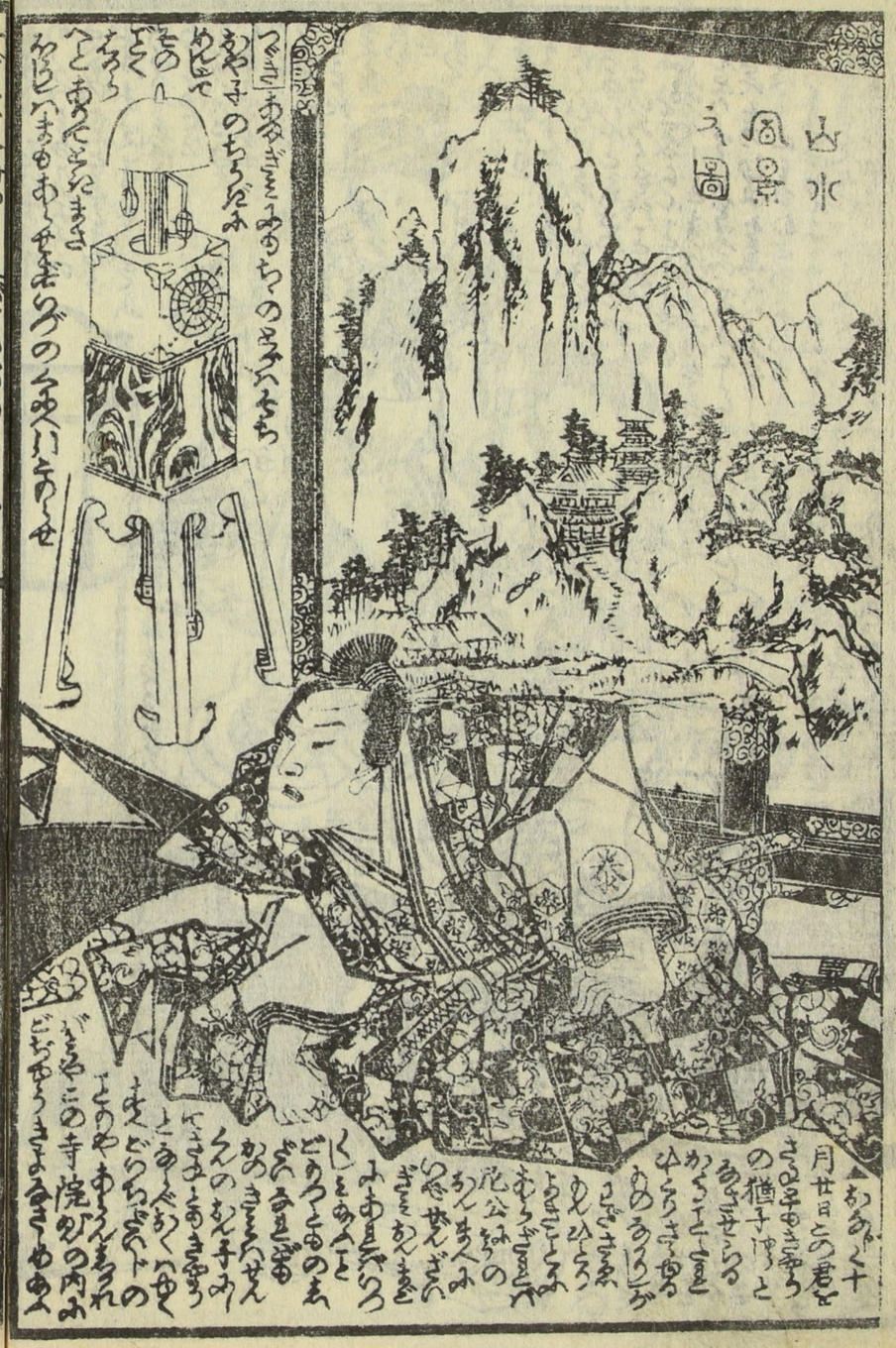
義秀

御臺所
御臺所より
松島局へ義秀の
妻ゑぞたを尋ね
と實朝卿の御口入
京上臈
松島局

七つ九かつぐき
千賀九郎
九
恭



つゞき
光
賣
義
九



▲あるとき十月廿日この君をさる子もさるうの猫子ゆーとあるせらるかるこーとまるゆらるさまるものあるりしがこのさまもひとりとものもんとどうとものもんどんまるもかのきんせんえんのむすみてさまーもきまるとーあるいまもとりたるどのとのやもんまるこのきよみまるゆ

つぎ　あるぎをみるちのるへちもあやまのちるみめしてちのどくちるへとあるたるまるみるいまもあるせるりのるゆいちるせ

十ぶ九ふをけらーれれがせいりのようとるうりえまるうるまべるたまるのあとめまるりえんのまるくるうるでるるざれべこのるきこえ久二年閏七月廿日むとよりよーるをるるるそるぬるりこ代のまるりえんのまるくまえるきこめいぜらるまべるりーるきるまるりーてるをるりみぬまるるみるるるるちりるるるる

寅
盛
尼

朝

應賀作

芳虎画

秀

「下の巻」

己未春錦橋堂新板

口中御藥 固齦散 大包代百銅 小包代三銅

切一ぬりを一うがを一うみ血 一血ぬぐ一ぬぐさんを

清淨精製 白妙 一包代 廿二銅

寝小便大奇藥 一包代 三百銅

美玉百人一首 中本形全一冊 女用文章入

紅梅百人一首 半紙本全二冊 女用文章入

源氏一猛圖會 全同 撰 冊同 画

雛鶴笹湯壽 紅猩 大本 一冊 山東菴京山作 一陽齋豊國画

女中用文玉手箱 中本形 全冊 山東菴京山作

金 地本錦繪問屋 江戸南傳馬町二丁目 山田屋庄兵衛

下
錦
樵
堂
板

重寶記

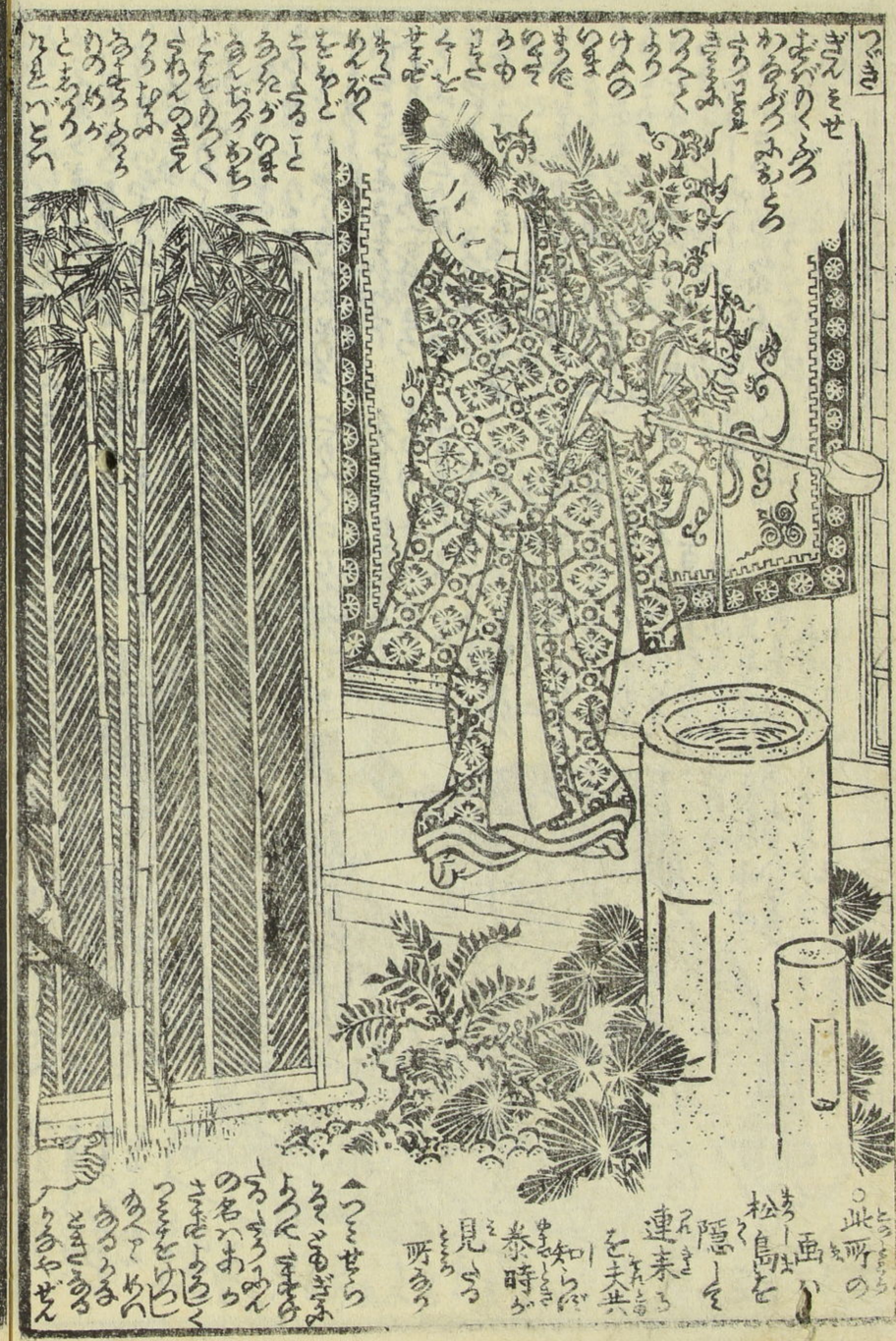
妙符は字

撐拾撐拇

右の四字を紙に認め懐中まるるときは難及びめつの災を免ること疑ひなし鳥獸みるも是を付るときは弓鉄炮も中らねとなり

尼
門

義



つゞき

○此所の画い松島を隠しを連素を夫共知らば恭時分見る所あり

朝
松

つゞき
老芝

○泰時父義時を深く諫る

○朝時義時の勘當

○受て駿河の国へ趣く

新兵衛尉

万亭應賀作

錦朝樓芳虎画

己未初春錦橋堂新板目録

教草女房形氣 十九編 山東菴京山作 二十編 梅蝶樓國貞画

男子学問楽 十九編 金水作 二十編 國貞画 一名春芳 吾妻下 五拾三驛 初編 雪住作 六編 芳虎画

御所桜 九編 万亭應賀作 十編 孟齋好寅画

宮城野信夫 敵討白石咄 全二冊 孟齋作 好寅画

無病長寿 養生手引草 上中下 立齋廣重画

伊賀越敵討物語 全二冊 孟齋作 好寅画

造紫桜義仇 十編 梅彦作 揃 芳虎画

金地本錦繪問屋 南傳馬町二丁目 山田屋庄次郎

万亭應賀作　錦朝鞆勞虎画　山庄壽梓